



セッション

この章では、Cisco Nexus Dashboard Data Brokerで作成されたセッションの詳細について説明します。

リリース 3.10.1 以降、Cisco Nexus Data Broker (NDB) は Cisco Nexus Dashboard Data Broker に名前が変更されました。ただし、GUI およびインストール フォルダ構造と対応させるため、一部の NDB のインスタンスがこのドキュメントには残されています。NDB/ Nexus Data Broker/ Nexus Dashboard Data Broker という記述は、相互に交換可能なものとして用いられています。

- [スパンセッション \(1 ページ\)](#)

スパンセッション

[スパンセッション (**Span Session**)] タブには、Nexus Dashboard Data Broker コントローラのスパンセッションの詳細が表示されます。

スパンセッションは、スパンデバイスのスパン接続先と NDB デバイスの入力ポート間のリンクです。スパンセッションは部分的に Nexus Dashboard Data Broker ネットワークの外部にあり、スパンの接続先からモニタリング ツール ポートへのパケットのパスを定義します。

票には次の詳細が表示されます。

表 1: スパンセッション

列名	説明
[Status]	<p>SPAN セッションのステータスは、デバイス/コントローラでのセッションの動作ステータスと、それに接続されている接続のステータスによって異なります。表示されたステータスアイコンをクリックすると、セッションと接続の詳細が表示されます。セッションステータスに影響を与える要因は、スパンの接続先、送信元（実稼働スイッチ/コントローラ）、入力ポート、モニタリング ツール ポート、ISL リンク（該当する場合）です。</p> <p>使用可能なステータスは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 緑：セッションは成功しています • 黄：セッションは部分的に成功しました • 赤：セッションが失敗しました • 灰：セッションがインストールされていません
[スパン セッション (Span Session)]	<p>スパンセッション名。</p> <p>このフィールドはハイパーリンクです。スパンセッションの名前をクリックすると、右側に新しいペインが表示されます。ここでは、次の追加のアクションを実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • スパンセッションの編集またはクローン処理 (8 ページ)
IP アドレス (IP Address)	<p>スパンセッションの送信元（スパン デバイス）の IP アドレス。</p>
[スパン送信元 (Span Sources)]	<p>スパンセッションの送信元ポートの数。</p> <p>(注) VLAN の場合、送信元ポートは ACI デバイスの EPG です。</p>

列名	説明
スパン接続先 (Span Destination)	セッションのスパン接続先の数。 (注) 複数の SPAN 接続先を持つことができるのは ACI デバイスだけです。複数のスパン接続先がある場合、内部セッションが作成されます。これらの内部セッションは、ソースポートの可用性に基づいて作成されます。 1 セッションにつき、1 つのスパン接続先だけがサポートされます。
接続 (Cisco TMS Connection)	スパンセッションに関連付けられた接続の名前。
作成者	スパンセッションを作成したユーザ。
最終更新者	スパンセッションを最後に変更したユーザ。

[スパンセッション (Span Sessions)] タブから次のアクションを実行できます。

- **[スパンセッションの追加 (Add Span Session)]** : このアクションを使用して、スパンセッションを追加します。 [スパンセッションの追加 \(4 ページ\)](#) を参照してください。
- **[スパンセッション/接続先の同期 (Synchronize Span Session/Destination)]** : このアクションを使用して、実稼働スイッチ (Nexus / Catalyst) またはコントローラ (APIC / DNAC) の情報を Nexus Dashboard Data Broker コントローラと同期します。スパンセッション情報がスイッチまたはコントローラで削除された場合、このアクションにより、スイッチまたはコントローラのスパン接続先設定とスパンセッション設定が、Nexus Dashboard Data Broker コントローラの設定と同期されます。
- **[インストールのトグル (Toggle Install)]** : このアクションを使用して、スパンセッションをインストール/アンインストールします。スイッチ (Nexus / Catalyst) /コントローラにスパンセッションをインストールできます。また、Nexus Dashboard Data Broker コントローラから削除せずにスパンセッションをアンインストールできます。スパンセッションはスイッチ/コントローラからアンインストールされますが、将来の使用のために Nexus Dashboard Data Broker コントローラに保存されたままになります。
- **[スパンセッションの削除 (Delete Span Session)]** : 行の先頭にあるチェックボックスをオンにして、削除するスパンセッションを選択し、**[アクション (Actions)]** > **[スパンセッションの削除 (Delete Span Session(s))]** をクリックします。選択されたスパンセッションが削除されます。チェックボックスを選択せずに削除アクションを選ぶと、エラーが表示されます。スパンセッションを選択するように求められます。

スパンセッションの追加

この手順に従って、スパンセッションを追加します。



- (注) Nexus スイッチには最大 4 つのアクティブなスパンセッションを追加できます。
Catalyst スイッチには、最大 8 つのアクティブなスパンセッションを追加できます。

始める前に

スパンセッションを設定する前に、コントローラ/プロダクションスイッチを追加します。

ステップ 1 [セッション (Session)] > [スパンセッション (Span Sessions)] に移動します。

ステップ 2 [アクション (Actions)] ドロップダウンリストから、[スパンスイッチの追加 (Add Span Switches)] を選択します。

ステップ 3 [スパンスイッチの追加 (Add Span Switches)] ダイアログボックスで、次の詳細を入力します。

表 2: スパンセッションの追加

フィールド	説明
[スパンセッション名 (Span Session Name)]	スパンセッションの名前を入力します。
[スパン送信元 (Span Sources)]	スパン送信元を選択します。 実稼働スイッチまたはコントローラを選択します。 これらのそれぞれには、後の行で説明する一意のフィールドセットがあります。
[スパン送信元 : コントローラ (Span Source: Controller)]	
コントローラ	[コントローラを選択 (Select Controller)] をクリックし、[ACI] または [DNAC] のいずれかを選択します。 ACI ネットワークの一部である Nexus デバイスのスパン送信元を作成するには、[ACI] を選択します。 Catalyst スイッチのスパンソースを作成するには、[DNAC] を選択します。

フィールド	説明
[リーフポート (Leaf Ports)]	<p>(ACI コントローラのみ)</p> <p>複数のリーフポートからのトラフィックを取得するリーフポートを追加するには、[リーフポート (Leaf Ports)]を選択します。</p> <p>[リーフポートの選択 (Select Leaf Ports)]をクリックします。表示される[リーフポートの選択 (Select Leaf Port(s))]ウィンドウで、ポッドを選択します。選択したポッド内のデバイスが表示されます。デバイスとデバイスのポートを選択します。</p>
[EPG/AAEP]	<p>(ACI コントローラのみ)</p> <p>EPG/AAEP 送信元を追加するには、[EPG/AAEP] を選択します。</p> <p>[EPG/AAEP の選択 (Select EPG/ AAEP)]をクリックします。表示される [EPG/ AAEP の選択 (Select EPG/ AAEP)] ウィンドウで、テナント、プロフィール、EPG、および EPG メンバー を選択します。表示される EPG メンバーは、動的、静的、AAEP です。[動的 (Dynamic)] または [静的 (Static)] を選択すると、メンバーの詳細が右側に表示されます。EPG メンバーとして [AAEP] を選択する場合には、[AAEP の選択 (Select AAEP)] 列で AAEP を選択します。</p> <p>(注) EPG インターフェイスは、すべてのポートが同じリーフ スイッチ内にある場合にのみ機能します。</p> <p>EPG が複数のスイッチに分散している場合は、すべてのリーフ スイッチで対応する SPAN 接続先を選択します。</p>
インターフェイス	<p>(DNAC のみ)</p> <p>[インターフェイスの選択 (Select Interface)] をクリックし、Catalyst スイッチとインターフェイスを選択します。</p>
VLAN	<p>(DNAC のみ)</p> <p>VLAN ID を入力します。</p>
[スパン送信元 : 実稼働スイッチ (Span Source: Production Switch)]	

フィールド	説明
[インターフェイス (Interface)]	[インターフェイスの選択 (Select Interface(s))] をクリックし、デバイスとポートを選択します。 選択したデバイスとポートがセッションで使用されます。
VLAN	[実稼働スイッチの選択 (Select Production Switch)] をクリックして、デバイスを選択します。VLANIDを入力します。 VLANIDと一致するデバイスがセッションで使用されます。
方向 (Direction)	デバイスのセッション送信元ポートのトラフィックを示します。 これらのオプションの1つを選択します。 <ul style="list-style-type: none">• 着信• 発信• 両方

フィールド	説明
SPAN 宛先	<p>[SPAN 接続先の選択 (Select SPAN Destination)] をクリックし、スパン接続先ポートを選択します。表示されるフィールドは以前の [スパン送信元 (Span Sources)] の選択に基づいています。</p> <p>(注) スパン接続先ポートは、入力ポートの追加の手順を使用して以前に作成されました。</p> <p>NDBデバイスに直接接続されている場合は、ローカルスパンの接続先を選択し、そうでない場合はリモートスパンの接続先を選択します。リモートスパンの接続先は、Nexusスイッチにのみ適用されます。</p> <p>スパンセッションをインストールするために、Nexus Dashboard Data Broker コントローラは、ACI で作成されたスパン宛先をリストします。</p> <p>Nexus SPANセッションをインストールするために、Nexus Dashboard Data Broker コントローラは、Nexus デバイス用に作成された SPAN 接続先をリストします。</p> <p>Catalyst SPANセッションをインストールするために、Nexus Dashboard Data Broker コントローラは、Catalyst スイッチ用に作成された SPAN 接続先をリストします。</p>
[接続を適用 (Apply Connection)]	<p>セッションの接続を選択します。</p> <p>スパンセッションに既存の接続を関連付けるか、スパンセッションの新しい接続を作成できます。</p> <p>(注) セッションの一部であるすべてのスパン接続先も接続の一部であり、トラフィックをモニタリングツールに転送する必要があります。</p> <p>ボタンをクリックして、スパンセッションへの接続の追加を有効にします。[接続の選択 (Select Connection)] をクリックして、[接続の選択 (Select Connection)] ウィンドウから接続を選択します。</p>

(注) EPG の場合 :

- EPG 選択の場合、EPG が選択されている場合、デフォルトでは、Nexus Dashboard Data Broker コントローラは、選択された EPG の静的または動的に設定されたインターフェイスの変更をリッスンします。変更がある場合は、SPAN セッションに適用されます。Web ソケット接続は、証明書で保護されていません。イベントリスニングを無効にするには、ndb/configuration フォルダの下の config.ini ファイルに enableWebSocketHandle=false を追加します。
- APIC に新しい EPG メンバーが追加されたときに、設定された SPAN セッションの一部として新しく追加された EPG メンバーに一致する SPAN 接続先がリーフスイッチにない場合、Nexus Dashboard Data Broker はこのイベントを無視し、新しい EPG メンバーは Nexus Dashboard Data Broker に表示されません。

(注) スパン接続先の場合 :

SPAN 送信元の各リーフスイッチに、対応する SPAN 接続先が少なくとも 1 つあることを確認します。

ステップ 4 [スパンセッションの追加 (Add Span Session)] をクリックして、実稼働スイッチまたはコントローラにインストールせずに、作成したスパンセッションを追加します。[スパンセッションのインストール (Install Span Session)] をクリックして、作成したスパンセッションを保存し、実稼働スイッチまたはコントローラにインストールします。

スパンセッションの編集またはクローン処理

この手順に従って、スパンセッションを編集するか、そのクローンを作成します。

スパンセッションの編集は、既存のスパンセッションのパラメータの一部を変更することを意味します。

スパンセッションのクローンを作成するということは、既存のスパンセッションと同じパラメータを使用し、必要な変更を加えた新しいスパンセッションを作成することを意味します。スパンセッションの名前は、保存する前に変更してください。

始める前に

1 つ以上のスパンセッションを追加します。

ステップ 1 [セッション]>[スパンセッション]に移動します。

ステップ 2 表示されたテーブルで、[セッション (Session)] をクリックします。

新しいペインは右側に表示されます。

ステップ 3 [アクション (Actions)] をクリックし、[スパンセッションの編集 (Edit Span Session)] または [スパンセッションのクローン作成 (Clone Span Session)] を選択します。

テーブルに表示されているパラメータを編集します。

表 3: スパンセッションの編集

フィールド	説明
[スパンセッション名 (Span Session Name)]	スパンセッション名が表示されます。 このフィールドは編集できません。
スパンソース	以前に選択したスパンソースが表示されます。スパンソースは変更できません。
[スパン送信元 : コントローラ (Span Source: Controller)]	
コントローラ	[コントローラの選択 (Select Controller)] をクリックし、[ACI] または [DNAC] のいずれかを選択します。 ACI ネットワークの一部である Nexus デバイスのスパン送信元を作成するには、[ACI] を選択します。 Catalyst スイッチのスパンソースを作成するには、[DNAC] を選択します。
[リーフポート (Leaf Ports)]	(ACI コントローラのみ) 複数のリーフポートからのトラフィックを取得するリーフポートを追加するには、[リーフポート (Leaf Ports)] を選択します。 [リーフポートの選択 (Select Leaf Ports)] をクリックします。表示される [リーフポートの選択 (Select Leaf Port(s))] ウィンドウで、ポッドを選択します。選択したポッド内のデバイスが表示されます。デバイスとデバイスのポートを選択します。

フィールド	説明
[EPG/AAEP]	<p>(ACI コントローラのみ)</p> <p>EPG/AAEP 送信元を追加するには、[EPG/AAEP] を選択します。</p> <p>[EPG/AAEP の選択 (Select EPG/AAEP)] をクリックします。表示される [EPG/AAEP の選択 (Select EPG/AAEP)] ウィンドウで、テナント、プロフィール、EPG、および EPG メンバー を選択します。表示される EPG メンバーは、動的、静的、AAEP です。[動的 (Dynamic)] または [静的 (Static)] を選択すると、メンバーの詳細が右側に表示されます。EPG メンバーとして [AAEP] を選択する場合には、[AAEP の選択 (Select AAEP)] 列で AAEP を選択します。</p> <p>(注) EPG インターフェイスは、すべてのポートが同じリーフ スイッチ内にある場合にのみ機能します。</p> <p>EPG が複数のスイッチに分散している場合は、すべてのリーフ スイッチで対応する SPAN 接続先を選択します。</p>
インターフェイス	<p>(DNAC のみ)</p> <p>[インターフェイスの選択 (Select Interface)] をクリックし、Catalyst スイッチとインターフェイスを選択します。</p>
VLAN	<p>(DNAC のみ)</p> <p>VLAN ID を入力します。</p>
[スパン送信元 : 実稼働スイッチ (Span Source: Production Switch)]	
[インターフェイス (Interface)]	<p>スパン セッションの追加中に以前に選択したインターフェイスが表示されます。これらのインターフェイスは追加または削除できます。</p> <p>[インターフェイスの選択 (Select Interface(s))] をクリックし、デバイス と ポート を選択します。</p> <p>選択したデバイスとポートがセッションで使用されます。</p>

フィールド	説明
VLAN	<p>[実稼働スイッチの選択 (Select Production Switch)] をクリックして、デバイスを選択します。VLAN ID を入力します。</p> <p>VLAN ID と一致するデバイスがセッションで使用されます。</p>
方向 (Direction)	<p>デバイスのセッション送信元ポートのトラフィックを示します。</p> <p>これらのオプションの1つを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 着信 • 発信 • 両方
SPAN 宛先	<p>[SPAN 接続先の選択 (Select SPAN Destination)] をクリックし、スパン接続先ポートを選択します。表示されるフィールドは以前の [スパン送信元 (Span Sources)] の選択に基づいています。</p> <p>(注) スパン接続先ポートは、入力ポートの追加の手順を使用して以前に作成されました。</p> <p>NDB デバイスに直接接続されている場合は、ローカル スパンの接続先を選択し、そうでない場合はリモート スパンの接続先を選択します。リモート スパンの接続先は、Nexus スイッチにのみ適用されます。</p> <p>スパンセッションをインストールするために、Nexus Dashboard Data Broker コントローラは、ACI で作成されたスパン宛先をリストします。</p> <p>Nexus SPAN セッションをインストールするために、Nexus Dashboard Data Broker コントローラは、NX-OS デバイス用に作成された SPAN 接続先をリストします。</p> <p>Catalyst SPAN セッションをインストールするために、Nexus Dashboard Data Broker コントローラは、Catalyst スイッチ用に作成された SPAN 接続先をリストします。</p>

フィールド	説明
[接続を適用 (Apply Connection)]	<p>セッションの接続を選択します。</p> <p>スパンセッションに既存の接続を関連付けるか、スパンセッションの新しい接続を作成できます。</p> <p>(注) セッションの一部であるすべてのスパン接続先も接続の一部であり、トラフィックをモニタリングツールに転送する必要があります。</p> <p>ボタンをクリックして、スパンセッションへの接続の追加を有効にします。[接続の選択 (Select Connection)]をクリックして、[接続の選択 (Select Connection)]ウィンドウから接続を選択します。</p>

ステップ4 [スパンセッションの編集 (Edit Span Session)]または[スパンセッションのクローン作成 (Clone Span Session)]をクリックします。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。